

対馬海域へ希望の船出

津奈木の漁民

イカ漁の船団第一陣

水俣病で近海漁業へ

水俣病禍で漁場を失った熊本
津奈木村漁民は不知火海での操業
に見切りをつけ八日対馬海域への
近海漁業に踏み切った。

一行は金嶽県水産試験場技師、林

同村水産課技手をリーダーに大
泊、赤崎部落から一撃ずつ、平国
二郷計四郷でいずれも二、三トの

発動機船。乗組員は最年長の長浜
明美さん（五）をほか十五人で来年の
二月いっぱいまで対馬近海でイカ
漁に従事する。出漁にあたっては
船の整備費として村、漁協で補助
金を出し激励した。

この朝八時半から同村大泊漁港で
斎藤村長はじめ漁業関係者、部落
民多数が集まり壮行会を開き午前
十時村民の期待をになつて対馬に

向け出航した。船団は対馬海域を
北上してはじまっているイカ漁場
で操業、あわせてブリ、シビ、ク
イなどの資源を調べ対馬の上原郡
峰村佐賀に根拠地をおくことにな
っている。寒イカの水揚げが順調
ならば、さつそく次の船団を呼び
よせる計画。県では前から対馬の
近海漁業に着目しており、こんど
の転業の成績に期待は大きい。